

関東アコーディオン演奏交流会

第35回

実行委員会ニュース

5号

ホームページ <https://kantoacco.omiki.com/>



2024.1.23 発行
編集 広報部

本年もよろしくお願い申し上げます

今年も元気で、もっともっと多くの方たちにアコの音色を届けましょう！



イラスト／後平

山登りは小さな一歩の積み重ね！ アコーディオンの練習と似ていませんか（編集部）

目次

- 増田真吾×松本みさこ Live!...2～3P
- 2023 横浜アコーディオン愛好会発表会...4～5P
- ヤマノミュージックサロン アコーディオンクリスマスコンサート...6～7P
- JAA アコーディオンの祭典 Xmas フェスタ 2023...8～9P
- アコ・ネット～f～18年の活動に幕...10P
- ホワイトボード...11～12P

増田真吾×松本みさこ Live!

2023年11月19日(日) 会場 good music and life.cafe ももすけ 開演 16:00

会場は、JR 東海道線「小田原」駅東口から徒歩 15 分程のカフェで、カウンターと通路を挟んでテーブルが置かれ、席は 30 程だろうか、奥にかわいいステアがつくられていた。お客さんはお店の常連さんが多かったように感じました。それぞれコーヒー、ワイン、など注文して飲みながら鑑賞します。テーブル側の壁の棚には大量の CD がびっしり置かれていて、視聴もできるようです。



(棚に並べられた CD)

進行役は関口義人さん。ジプシーやトルコ音楽などの研究・執筆活動の傍ら、ライブハウスでミュージシャンとのブッキングなどされている方です。

二人の紹介(関口さん):『カーヌーン奏者の増田真吾さんは彼が日本にいたときに私がマネジメントしていたトルコ音楽のバンドのメンバーでもあって、この程ドイツから4年ぶりに帰国したらびっくりする上達をみせていたので皆さんに聴いていただきたいと思った。松本みさこさんは、パートナーを誰にするか決める際、私はアコーディオンが大好きだということもあって、松本さんの演奏は非常に対応力が豊かで、どんな演奏にもきめ細かく対応できるので声をかけました』と紹介。

45 分の二部構成です。筆者の知らないことが多いので曲名など載せられない部分があるけれど、ライブの様子を記事にしてみました。

松本みさこさんの『トルコの争とイタリア製のアコーディオンでどんな会話ができるでしょうね』との言葉で始まりました。

1 曲目は『ドイツ系のクレズマーを編曲、二人で演奏します』と紹介。汽車がカタコト走り始めるようなイントロで始まり、車窓からどんな景色をみているのだろうか、徐々にスピードが出てきます。たどり着く街を想像するのも楽しい。

次は、お互いソロの曲を1曲ずつ演奏。最初は松本さん。ロシア民謡で有名な「黒い瞳」です。『この曲は、コロナ禍前から曲想や編曲いろいろと試行錯誤しているうちにコロナ禍になって弾く機会が無かったので、このロシアの曲から始めてだんだん南下していこうと自分で構想を立ててこの曲を演奏したいと思います』と紹介。重音での進行、ジャズフ



ィーリングあり、最後は腰を落として足を交互に伸ばしたり跳ねたり

のコサックダンスが目につかびました。初めて聴く編曲でした。松本さんは鍵盤側のカバーを外して演奏したので、指の動きとリード版の穴を開け閉めするレバーの上下に跳ねる動きが重なってみても楽しめました。(左段下の写真)

増田真吾さんは、『僕の音楽の専門をあげればトルコ音楽、アラビア音楽だと思います。この曲も基本的には10拍子です。今日、“レク”というタンバリンを持ってきているので、まず10拍子をとってみます。(1・2・3)(4・5)(6・7)(8・9・10)と分けて考えるとわかりやすいと思います。「他に11拍子(2/2/3/2/2)もタンバリンで実演」トルコとかバルカンだとか、このような変拍子の曲が非常に多いのでこのような曲ばかり演奏しております』と解説。



演奏が始まると、日本の琴でさくら変奏曲を聴いたときの花びらがハラハラと舞い落ちる情景が浮かんできた。琴の音色です。演奏したのはオリジナル曲で、リズムは違っても終わり方なども、流れるメロディはどこか日本を感じる10分近い演奏でした。(拍手)

次は、エジプトの曲「Aziza」(アジーサ)『映画の中のベリーダンスの曲として使われている有名な曲』と紹介。

続いて(2/2/3)の7拍子の曲(トルコ、ギリシャ、ブルガリアがまたがるトラキア地方が発祥らしい)をタンバリンとアコーディオンで実奏。「ben giderim batuma」と「HijasMandra」の2曲演奏。『ルーマニアやハンガリでもこういうリズムに乗っ

てフォークダンスを踊るのは一般的です』

（トルコの「ヒジャーズ」という音階が、クレズマーというユダヤ人の音楽の音階と一緒にあったり、他にも共通の音階があることを知って、彼のいうことがよくわかった：松本みさこさん）

カヴァル（笛）の紹介。『縦でもなく横でもなく、斜めに構えて吹く。トルコのカヴァルは1本もので、ブルガリアのものは途中で抜いてコンパクトに分けられる』と解説。

次の曲は、ブルガリアの曲『7拍子だけど、先ほどアコーディオンと演奏した（2/2/3）ではなく、この曲は（3/2/2）の7拍子です。ブルガリアではポピュラーでよく使われる一般的なリズムの一つ』これをアコーディオンとカヴァルで演奏。（下の写真）“これから何かが始まるよ”といった幕開け予告のような感じの旋律です。アコーディオンは、1拍目を“ズーン”と長めに出して、2拍目と3拍目はトン・トンとスタッカートぎみに刻んでいる。



（カヴァルにはアコーディオンにはない音階があるので、ちょっと補足。尺八同様笛の先を左右に振る「角度を変える」ことで音階をスライドするように変えることができる）。また、アゼルバイジャンの曲も演奏された。日本でもトルコの男女のダンサーが来日して踊る、その踊りの曲をアンサンブルで演奏。どこか歌謡曲のようにも聞こえるし、津軽三味線を思わせるところもあるし不思議な曲です。

ちょっとカーヌーンの紹介。指に爪を付けて弦をつま弾く。そのため、リングを指にはめて爪を押さえる。（左手にも同じようにはめる）『僕は、ハーブのようにグリッサンド（流れるように）や、ギターのように素早くシャッと弦をなでたりもするけれど、基本的に両方の人差し指でメロディを奏でる』

『1つの音に3本弦が張ってある（これを1コースと呼び3本とも同じ音）。基本的には26コースなので、78本。僕のは1コース多く作ってあるので今日使っている楽器は27コースの81本です』

『左手は演奏しながら左側のキー（マンドウラ）を操作（スライド）して半音、更に細かい微分音を出しながら演奏する』。ちなみに、楽器の重さは6キロ



ぐらいだそうです。（写真右は進行役の関口さん。）

外がいい感じに暗くなってきたのでと増田さんはオリジナルの「ムーンライト」を独奏。トレモロなど目をつぶって聴いていると日本の琴の演奏だといわれてもわからない。松本さんは「リベルタンゴ」を独奏。

最後は二人でクレズマーを3曲メドレーで演奏。民族衣装の男女が集まり広場で踊りが始まる。最初はアコーディオンがベースを刻み、カーヌーンがメロディを奏でる。カーヌーンは高音域を多用していて賑やかな感じですが、ハチャトリアン剣の舞のようにも感じます。途中でタンバリンや鈴に変わるとアコーディオンがメロディを受け持つ。踊りの足の動きや手の動きが見えるようです。（拍手）



拍手に応じてアンコール。『いまから弾く曲はギリシャの曲だと思うけれど、トルコなどあの辺りには共通な曲が多い』と解説。フォークダンスのマイムマイムのようにメロディを繰り返します。



写真（主宰提供）：左から
関口義人さん：進行
増田真吾さん：カーヌーン
松本みさこさん：Acc.
（good music and
life.cafe ももすけにて）

筆者はカーヌーンをみるのも初めて、聴くのも初めてです。旋律や拍子を変えて、踊りに使われたり喜びや悲しみを豊かに表現するアラブの音楽に触れる貴重な午後の一時間で、ホームコンサートのようにも感じた素敵なライブでした。

（文・写真：乙津）

2023 年 横浜アコーディオン愛好会 発表会

2023 年 11 月 23 日（日） 横浜青年館 多目的室（横浜市南区）



横浜市営地下鉄ブルーライン「吉野町」駅から徒歩 4 分。青年館入り口には、毎回ウエルカムボード（左の写真）が置かれ、「素敵な発表会が始まるよ」とお客さんを歓迎している様子が伝わってきます。

プログラムは、途中休憩を挟んで全 21 曲。最初と最後が合奏で、間に独奏、重奏、歌のひとつが入る構成です。オープニングは「80 日間世界一周」、2 番「バラのタンゴ」、3 番「日本民謡メドレー」と 3 曲続けて全員合奏です。

散歩気分のさわやかな演奏の 1 番が終わったところで、塚本五郎実行委員長から『コロナ禍に



なり 4 年間は内部発表会でしたが、今年はお客さんをお招きしようということになりました。楽しんでください』と挨拶がありました。

2 番はバスアコのリズムに乗って軽やかな「バラのタンゴ」。ここで司会者がポケットから赤いハンカチを取り出し手の中に丸めて息を吹きかけると真っ赤な薔薇の花に変わる手品を披露。驚きと笑い声で会場の演奏者とお客さんともに気持ちや和らいだところで、3 番目の「日本民謡メドレー」へ、会津磐梯山から始まり、佐渡おけさ、木曽節、黒田節、そして賑やかな八木節で終わります。伸び伸びした素敵な演奏でした。（編曲：3 曲とも石居庸介）

4 番からは、独奏とアンサンブル。最初は藤原幸就さんの「ピクニック」（編曲：伴 典哉）♪丘を越え 行こうよ・・・一回目は演奏のみ、繰り返して会場の皆さんと歌いながら演奏。

5 番、（富山淑清）はロシア民謡「黒い瞳」（編曲：石居庸介）よく演奏される曲だけれど、出だしを聴いたとき「曲が違う？」と思ってしまった。聴いたことのない編曲でした。

6 番、「シェルブールの雨傘」（編曲：松永勇次）は重奏（小池・森）で澄んだ音色の演奏です。

7 番、「マイ・ボニー」（編曲：ラース・ホルム）



は三重奏（塚本・佐藤・森）。中学校の英語の授業で歌った記憶のある懐かしいスコットランド民謡。（上の写真）

8 番は重奏（唐澤・佐藤）でポーランド民謡の



「シュワジュベチカ」（編曲：伴 典哉）『80 代の方はフォークダンスで踊った懐かしい曲だと思います』と演奏者のコメントです。

9 番「Let It Be」（編曲：松永勇次）は独奏（上田祐子）。好きな曲だったので選んだけれど、調べてみて「あるがままに」という意味だと初めて知った。ビートルズが事実上解散した一ヶ月後に発売され、“あるがままに進みなさい”とうたっていることに思いをはせながら演奏しますと紹介。

10 番、独奏（横島照久）「Just The Way You Are」（編曲：Gary Meisner）『1970 年の曲で、日本では「素顔のままに」という題名です。愛する女性への愛情のこもったラブソングで、作曲者 Billy Joel の曲を良く聴いていたと講師に話したら先生からこの楽譜をいただいた』とのコメントです。初めて聴く曲でした。・休憩（後半は 15：00 開始）・

後半の最初は 11 番。『伊豆高原に越した横浜ア



コの OG で、今は地元の方たちと歌の伴奏などして楽しんでいるのですが、今日の日のために来てくださいました』と紹介。曲は「知床旅情」と「旅人よ」旅人よ、は好きな曲の 1 つだそうです。横アコの方と一緒に伴奏（伏見・唐澤）

12 番、（渡辺寿美子）「山小屋の灯」（編曲：木下 さんき）から再び独奏に。演奏者は、『自分は歌ったことはないけれど、教則本で練習していた曲』と紹介。前奏の最後「ピッ、ピッ、ピッ」と鳴ったら歌ってくださいと、この曲も一緒に歌いました。



13 番、（湯浅潤平）独奏「恋人よ」（編曲：松永勇次）『1980 年に発表され 90 万枚の大ヒットした曲』と紹介。高齢になっても、好きな曲を口ずさみながら

弾く楽しみを持っていることは素晴らしいと思う。

14 番、(黒田康弘)独奏「真珠採りのタンゴ」(編曲：坂本光代)『ビゼー作曲の歌劇「真珠採り」の中のテノールのアリアの部分が、コンチネンタルタンゴとしていろいろな楽団によって演奏されています』と紹介。

15 番、「ポエマ」は三重奏(伏見・唐澤・森)。『日本では淡谷のり子が歌った恋の歌。踊れたら楽しいだろうなと思いながら演奏します』とのコメントです。



写真左側の男性(唐澤さん)、14 番の(黒田さん)、13 番の(湯浅さん)三人は同年齢でともに 83 歳になるとお聞きしました。

16 番は(金谷純子)独奏で「Mr. R. G.」。『いままでに弾いたことのないメロディーやリズムがとても魅力的に感じますが、駆け上がる 16 分音符に苦戦しています』との紹介がありました。

17 番、(佐藤優美子)独奏で「スラブ舞曲第 10 番 Op. 72-2」(編曲：松永勇次)『ドボルザークが自らのスラブ民族をテーマに作曲したスラブ舞曲の中の 1 つです。スラブ民族に伝わるデムカという踊りをもとにつくられています。刺繍をほどこした民族衣装を身につけて踊っている姿を想像しながら弾いてみます』と紹介されて演奏。

歩くようなゆっくりしたテンポの曲で、ロシアやウクライナ、ポーランドなどの華やかな踊りを想像していた筆者はちょっと当てが外れました。

18 番、「愛の讃歌」(編曲：石居庸介)は重奏(湯浅・佐藤)。



よく知られた曲なのでお客さんは演奏に合わせて歌いました。演奏者も口ずさんでいました。

19 番、重奏(金谷・森)で「Take Five」。

曲名にもなっている 4 分の 5 拍子の曲です。

20 番は講師演奏(森陽介)「イル・ポステイーノ」(編曲：柴崎和圭)『1994 年制作のイタリア映画。舞台はナポリ湾に浮かぶ島、チリから亡命してきた詩人パブロ・ネルーダと郵便配達の仕事に就くマリオの二人の出会いが描かれている』との解説です。ボートに乗った二人が水面に映る雲をじっと眺めているように静かな始まりです。すると、魚がボートの周りで跳ね始め水面に映る雲が乱れ動き出す。二人は不思議そうに乱れ動く水面の雲を見ているとやがて魚の姿も消え穏やかな水面に浮かぶ雲が戻ってくる。そんな時間の流れを感じた演奏でした。お客さんから「ブラボー・アンコール」の声がでていた。

21 番は最後の曲になります。全員合奏で「ラ・メール」(編曲：石居庸介)バスアコのベースが気持ちよく響いていて、ここでもアンコールの声



が掛り(写真上)、みんなで「ふるさと」を歌って終了となりました。(写真下)



青葉音楽百景「青葉区民音楽祭」

2023 年 11 月 12 日(日) 青葉公会堂(横浜市)

青葉区内で活動する文化団体が年に一度日頃の成果を発表する「青葉区民芸術祭」の一つ「青葉区民音楽祭」に横浜アコーディオン愛好会は今年も出場。オープニングで演奏した合奏「80 日間世界一周」、「バラのタンゴ」、「日本民謡メドレー」など、11:30~12:15(45 分)の中で演奏されました。「デイドリーム・ビリーバー」「ジノが 7 弦ギターを弾いている」等立奏で独奏もされた。

(記：乙津)

ヤマノミュージックサロン アコーディオンクリスマスコンサート

2023 年 12 月 16 日(土)14:00 開演(13:45 開場)



出演者の一人から『聴きに来ませんか、誰が聴きに来てもいいので』と誘いをいただいたので楽しみに足を運んでみました。生徒さんの中には「JAPC アコーディオン夏祭り」で演奏をされた方もおり、教室の存在は知っていましたが訪ねるのは初めてのアコーディオン教室（講師：せきたさらいさん）です。会場は、JR「有楽町」駅前、「ヤマノミュージックサロン」のある東京交通会館 11 階です。40 席ほどの席は、出場者、ご家族や友人で一杯でした。（写真：プログラムの表紙）

プログラムは、第 1 部「ソロ」（13 名）、第 2 部「ゲスト」、第 3 部「アンサンブル」（5 曲）の構成です。進行は講師（せきたさらいさん）が行い、演奏者に向けて『間違えてもポーカーフェイスで続けるように』と挨拶して始まりました。

◇第 1 部(独奏)◇

1 番の方は、第 35 回関東アコ（昨年 9 月開催）の初心者部（A：鍵盤楽器経験なしの部）に出場され努力賞を取られた方です。演奏曲は「アメイジンググレイス」今回は右手のみでの演奏でしたけれどもきれいな音色でした。

2 番の方は、筆者の所属する教室と友好関係にある「アコーディオンクラブ」にも所属しているのでよく知る方です。演奏曲は「きよしこの夜」赤いサンタ帽子をかぶり、両手で落ち着いて最後まで弾ききりました。コードボタンをたっぷり使った演奏で雰囲気が出ていました。

3 番からは、全て面識のない方です。演奏を聴くのも初めてです。3 番は「カッチーニのアベマリア」を暗譜で演奏。重音がしっかり出ていました。始めてみるジャバラのデザインで開いたときの模様が素敵な楽器です。（同じタイプの楽器で演奏された方が数人おられた）

4 番は「星に願いを」。サンタ帽子で登場。遠くの夜空の星を眺めるように静かに始まり、前奏が終わるとジャズ風に編曲（編曲：アコーディオン奏者おりこ）されていて、お客さんもリズムに乗って身体をゆらせて聴いていました。夢の中で聴いているような演奏です。

5 番は「セカンドワルツ」。『古い楽譜なので、たくさん書き込みがあるけれど、いま見ると書き込みの意味がわからない』と会場を笑わせて演奏。三拍子のベースに乗せて途中スイッチを

ローに変えたり気持ちよく流れていました。音もよく出ていました。

6 番は『ベートーヴェン ソナタ「悲愴」より』（編曲：演奏者本人）『5 拍子はちょっと無理だなと思って弾きやすく 3 拍子に替えた』と解説して演奏。曲は「悲愴」だけれど、とても力強く流れるような素敵な演奏です。（客席からブラボーの声が出ていた）

7 番は大手町教室から参加。曲は「パリのお嬢さん」。グリーンに金色の飾りを施し、ジャバラを開いたときの模様も素敵な楽器です。分散和音もきれいに演奏されていました。

8 番は「パリの橋の下」を演奏。アコーディオンを弾いているサンタの小物を楽器に付けていてみて楽しい。楽器の正面にも花飾りを付けて、楽しいクリスマスコンサートにしたいとの想いが会場に伝わってきます。三拍子で気持ちよく歌っていました。

9 番は「君をのせて」（編曲：せきたさらい）。空色のきれいな楽器で演奏。楽器の特徴なのかしっかりとたっぷりの音量で聴かせていました。

10 番は「海に見える街」（編曲：せきたさらい）暗譜で演奏。この方も茶系統のおしゃれな楽器です。魔女の宅急便の中で使われている曲です。お客さんは映画のシーンを思い出されたのではないだろうか。

11 番は「パルムドール」。楽器全体が淡い金色、黒鍵まで金色でおしゃれな楽器です。初めて聴く曲だけれど、スイッチで音色を変えながら、回転木馬にまたがってくるくる回っているような軽快でウキウキしてくる演奏です。

12 番は「ミッフィーのうた」（・×・）。ミッ

フィーはブルーナの絵本に登場するうさぎさん。ミッフィーと犬の小さなぬいぐるみを楽器に乗せて演奏。ピンクのはなやかな模様の入った楽器でパンチのある楽しい演奏でした。

13 番は川越の教室から参加。曲は「Happy Xmas」(War is Over)

楽器の色は赤。淡々と刻むベースにメロディーを乗せて歌いながらの演奏です。ソプラノででしょうか原語での歌も素敵でした。客席からも“すてき”といったため息のような声が出ていた。『一気にクリスマスの感じが高まりましたね』と司会者からの言葉です。

(『ヤマノでは有楽町、大手町、川越で教えており、ヤマノのイベントは希望すれば別の教室に在籍の方でも出演できるようにしています。/せきたさらい』と後日お聞きしました)

休憩(10分)



◇第2部ゲスト演奏◇
(さらっくまのクリスマスメドレー) せきたさらい先生のお友達と紹介。クマのぬいぐるみ(写真)を着て小型の赤いアコーディオンで軽快に「Red Wing」を弾きながら登場。

「サンタが街にやってくる」「赤鼻のトナカイ」「ブルークリスマス」「もみの木」「シュワジヴェチカ」「森のクマさん」をメドレーで演奏。

・第3部準備のためお客さんは一旦退席・

ヤマノミュージックサロンの練習室の並びに休憩用のドリンクコーナーが設けられていて、ここでコーヒーや水(冷水・お湯)など飲むことができました。

◇第3部(アンサンブル)編曲:せきたさらい◇

合奏の体制で全員が席について再びお客さんを迎えます。(指揮者なしで演奏)

最初は、♪あわてんぼうのサンタクロース～ジングルベル。続いて順に、♪ラストクリスマス ♪ホワイトクリスマス(始めは、メロデーパートが「ロースイッチ」で歌いもう一人は分散和音で重ねる演奏で、後半になると他のメンバーも加わってジャズ風なノリの良い演奏に変わった) ♪戦場のメリークリスマス ♪最後は、チキチキバンバン。『この演奏の途中で、メンバー紹介を行うけれど、その際紹介された方は自分で考えたフレーズを入れます』と解説。(下の写真参照)

拍手に応じて「ピア樽ポルカ」(編曲:中嶋正作)を演奏する前にお客さんにいろいろな鈴を配って、手拍子や鈴でお客さんも一緒に参加する楽しい演奏で幕を下ろしました。



その後、演奏者は楽器の集合写真(↑)、また講師から『お疲れさまでした』と演奏者に特注のプレゼントが手渡されました。

一言で言えば「カラフル」で楽しいコンサートでした。※カラフルな楽器のメーカーは「Dino Baffetti」東京ベイアコで扱っていると伺いました。(記:乙津)

写真(3枚):主宰提供



第3部(アンサンブル)の様子

JAA アコーディオンの祭典 Xmas フェスタ 2023

2023 年 12 月 24 日（日）北区北とぴあ ペガサスホール 開演 14：00

プログラムは、**第 1 部**（13 組のインターネットわくわく広場 2023 選抜演奏と表彰式）、**第 2 部**（4 組のプロアコーディオニストによる演奏と Xmas フェスタ特別セッション「ボヘミアン・ラプソディ」大合奏）の大きく 2 部に分かれた構成です。

第 1 部の演奏は、2023 年インターネットわくわく広場（第 4 回）昨年 9 月 1 日～10 月 31 日の募集期間に全国から多数応募された中から、Xmas フェスタに推薦された方々の演奏です。

筆者がアコーディオンの音色で包まれた満員となった会場に入ったのは、第 1 部後半の始まり、出場順番 8 番「詩人の魂」の演奏からです。そのため 1 番、鈴木まさこ「ゴリウオークのケークウオーク」 2 番、cafe301「リジアンヌ」（編曲：MAX FRANCY） 3 番、gumi「アンビエンス ミュゼッティエンヌ」 4 番、モール jun「ジノが 7 弦ギターを弾いている」（編曲：細谷道子） 5 番、Funky 手風琴「スノートレインシャッフル」 6 番、山中智子「ブルガリア組曲よりダイチョボホロ、ガンキノホロ」 7 番、H. Kaneda with Tetsu「フリーール」の演奏は聴いておりません。7 番までは演奏者、曲名のみになるけれどプログラムをそのまま紹介させていただきます。

筆者が聴いた最初の演奏 **8 番**は、星野詩織「詩人の魂」です。暗譜で、三拍子のベースに乗せて軽快に流れ分散和音もきれいに演奏されていました。

9 番は、Rii（リー）『クリスマスイブに「あずさ 2 号」を弾くとは思いませんでした。よろしかったら一緒に歌ってください』と紹介。この方も暗譜で複雑な心の内を言葉にした曲をしつとりと歌っていました。ジャバラの切り返しが難しそうです。

10 番は、趙 夢嬌「帰ってきたツバメ」（編曲：徐 天思）『小さいころからアコーディオンを習っています。ダンスのように明るく飛び回るつばめの姿を思い浮かべながら演奏します』と紹介。この方も暗譜で、紹介されたように実に匠に飛翔するつばめ様子を表現する演奏のテンポに感心しました。

11 番、水谷風太「ロンド カプリチオーゾ」『いつか弾いてみたいと憧れていた曲です。Xmas フェスタで弾くことができ嬉しいです』と紹介。「タタタタタタ」と小刻みに刻むベースに乗せて生き物が接近したかと思うと離れていたり、あ

るいはのたうち回るような得体の知れない世界です。いつものことながら、暗譜で演奏していて、曲想をつかむのが上手だし弱い音も強い音も生き生きしていて感心します。

12 番、東京アコーディオン研究会「♪猫踏んじやった♪」指揮：柴崎和圭（編曲：Helmut K. H. Lange、柴崎和圭 改）全員頭に猫の耳の付いたカチューシャを付けた 19 名の合奏です。19 匹の猫がじゃれ合ったりあくびをしたり、筆者は演奏に合わせて無意識に身体を左右に振らしていました。

第 1 部最後を飾ったのは **13 番**、風のうたアンサンブル「Once Upon A December（ミュージカル「Anastasia」より）編曲：荒木奈緒子『アンサンブルの合奏では、それぞれが少しレベルアップした役割に挑戦して新しい世界に身を置こうねという先生からの愛を受けて楽しく練習しています』また、活動場所が新潟県ということもあって『来られなかった仲間の思いを乗せて演奏します』と紹介。6 名での演奏です。

深い森の中をさまよい歩いているような広がりを感じる素敵なメロディーです。ミュージカルなので、観た方聴いた方もいたことと思いますが、筆者は初めて聴く曲でした。

【インターネットわくわく広場の表彰式】

講評を担当された 8 名（大塚雄一・佐藤芳明・柴崎和圭・杉山卓・田ノ岡三郎・田村賢太郎・土屋恵・松原智美 五十音順、敬称略）がそれぞれに推薦された方々はプログラムに掲載されていて、今日はその中から代表して【プロ奏者推薦部門】から「Rii（リー）さん」（大塚雄一推薦）、その他に【コメント数ランキング】から《ソロ部門》2 位の鈴木正美さん、【アクセス数ランキング部門】から 1 位の風のうたアンサンブル、に松原智美さんよりそれぞれ代表して賞状が授与されました。

また、松原智美さんから『たくさんの応募があって、それぞれに個性があって、こんなにバラエティに富んだ楽しみ方があるんだなと感激しました。動画を録るのは大変なことは私もわかるのでそれを観ていやになることもあると思うけれど、それがすごく勉強になる手段の一つなんです。次のステップに役立ててまた来年も参加してください。』と感想が述べられました。

第 2 部（4 名のプロアコーディオン奏者による演奏）
♪最初は、巡～MeguRee～（2 台のアコーディオン

デュオ) クリスマスソング「ジングルベル」を演奏しながら登場。最初の曲「鏡の視点」と2曲目の「いたずらな夕立」はオリジナルです。2曲目の「いたずらな夕立」は、妖精たちが森の中で鬼ごっこをして遊び回っていて、疲れたのでちょっと切り株に腰掛け一休みしていて気が付いたら夢の世界に入り込んでいた。そんな感じの曲でした。次に『2024年で結成10年になる。アコーディオンの魅力をたくさん教えてもらったので一緒にアコーディオン界を盛り上げていきたい』そして、『最後に大好きなRichard Gallianoさんの「クロードのタンゴ」を演奏します』と話しをされて演奏。お互いの息(目)の合わせ方と立奏ならではの身体の動きは観ていても楽しい。

♪二人目は田村賢太郎さん。『2009年にバンドへの加入をきっかけにアコーディオンを始める・・・』と紹介。

筆者は田村さんの演奏を聴くのは初めてです。楽器はボタンアコーディオンです。「Polka Dots and Moonbeams」と「夜明けの街」(オリジナル曲)の2曲演奏。2曲ともバーのカウンターで一人ウィスキーを飲みながらにか想いにふけている。そんな場面で静かに流れるBGMのように夢の中へ誘われていくような感じの曲でした。

♪三人目は松原智美さん。『大阪府出身。ドイツ国立 Folk ヴァンク芸術大学修了・・・』と紹介。

「A. フォルクレ作曲 ヴィオール組曲第5番 ハ短調より」1. モンティニ 2. シルヴァ 3. ユピテルの3曲を続けて演奏。松原さんの演奏を聴くのも初めてでこの演奏曲も初めて聴く曲です。松原さんもボタンアコです。1番、2番は赤ちゃんがゆりかごの中ですやすやすと寝入っているような穏やかな曲です。3番はリスが追いかけてこしている、そんな感じの曲でした。

♪四人目(最後の演奏者)は、杉山卓さん。『東京大学文学部卒業。高校在学中に独学でアコーディオンを始めた・・・』と紹介。1曲目はオリジナルで「bitter Chocolate Waltz」、2曲目は『去年 kobaさんと話す機会があり、俺の曲を弾いてくれないのか、俺の曲を弾いて欲しいといわれた』ことから、「Love Song」愛の唄(作曲:coba 編曲:杉山卓)を演奏。この曲は8年前にcobaさんが音楽監督をして杉山さんがアコーディオンで入った時のテーマ曲だと紹介されていました。

「愛の唄」は彼女に愛を告白し、二人で手をつないでくるくる回っているような三拍子のきれいなメロディーの曲です。3つめ(最後の曲)はクロードのタンゴ(編曲:杉山卓)偶然、作曲者Richard Gallianoさんが来日中とのことで、最初に演奏された巡〜MeguRee〜さんも昨日お会いしてこられたと話されていました。

【Xmas フェスタ特別セッション】

プログラムの最後は今回の楽しみの一つでもある「ボヘミアン・ラブソディ」(編曲・指揮・指導:柴崎和圭) 筆者は映画を観ていませんが、一人の青年が音楽にのめり込んでいく中でバンド仲間との葛藤であったり、居場所を探せない中で酒に溺れたり最後はエイズに感染したりと波瀾に富んだ人生が描かれているようです。この曲「ボヘミアン・ラブソディ」は大ヒットしたと紹介されていました。

山台をかたづけたフラットの床に35名が座る、最近みることのなかった大合奏です。途中4人が立ち上がるパフォーマンスもあり演奏にも工夫がみられました。また、ベースはバスアコ3台で担当されていました。昨年9月から本番当日のリハーサルを含めても5回の練習ということでは苦労されたことと思いますが、指導された柴崎和圭先生と演奏者の頑張りに拍手を送ります。

“サプライズ”として、演奏者全員がX'MASグッズ(サンタ帽・トナカイの角など)を身に付け、お客さんに「ジングルベル」をプレゼント。指揮者はタンバリン、会場は手拍子で盛り上がりしました。最後に演奏者全員で「メリークリスマス!」と唱和し幕を下ろしました。

ロビーでは、楽譜類、CD、アクセサリなど、いろいろな展示物が置かれていて休憩時には賑わっていました。(記:乙津)



特別セッションの様子(写真:主催提供)

2005年～2023年 アコ～f～18年の活動に幕

アコ・ネット～f～事務局発行「あこ・ネットふくしま 212号 (Final)」より
2023年12月31日発行

年明け早々、福島県で活動されている「アコネット～f～」から、活動を終える内容の便りを頂きました。惜しまれる内容ですが、新しい動きも記されているのでご紹介します。

福島県内のアコーディオン愛好者でつくるアコ・ネット～f～(石川晃雄代表)は12月16日(土)午後1時から二本松市勤労者研修センターで「Final コンサート」を開き、18年にわたる活動に幕を下ろしました。

「Final コンサート」のステージではアコ f メンバーによる合奏「広島愛の川」「栄光は君に輝く」と各メンバーのソロ演奏が披露されました。(写真右プログラム参照)

最後に主催者側を含め 50 人を超える参加者と我らの先達故中村一さんが好んで演奏した古関裕而さんの「栄光は君に輝く」「高原列車は行く」を歌いアコ f の活動を締めくくりました。

石川代表、佐藤正助さんからこの間の活動へのご支援に対する感謝の言葉が述べられました。

みなさま本当にありがとうございました。

合奏の様子↓(写真:主催提供)

中村一さん追悼 アコ・ネット～f～

Final コンサート

とき/2023年12月16日(土)
午後1時～3時
ところ/二本松市勤労者研修センター

《アコ～f～合奏》「栄冠は君に輝く」
○石川 正子 「ロマンス」「知床旅情」
○池田美津子 「恋心」「酒よ」
○飛田 利光 「津軽のふるさと」「荒城の月/詩吟」
○柳田 昌利 「サンタルチア」「ジプシーの月」
○石川 晃雄 「並木の雨」
○佐藤 正助 「白鳥の歌」(尺八と歌)
「相馬流れ山」(歌)「新相馬節」(歌)
○矢部 重光 「荒城の月変奏曲」「行商人」
○石川 晃雄 「枯葉」
○矢部 重光 「百万本のバラ」
《アコ～f～合奏》「広島愛の川」
○みんなで歌いましょう(歌詞裏面)
「栄冠は君に輝く」「高原列車は行く」「ふるさと」

*本日のご参加、18年間のご支援ありがとうございました。



◇県南アコーディオン研究会発足◇

アコーディオンを初歩から丁寧に学びたい方に朗報です!

矢部重光さん(〒963-6313 福島県石川郡玉川村川辺字館 73)がこのほど「県南アコーディオン研究会」を立ち上げました。矢部さんは「基本のキから始めましょう」と呼びかけています。次回レッスンは1月13日(土)午後1時30分から玉川村川辺公民館。

いずれ活動を紹介できたらと思っています。(文責:編集部)

..... ホワイトボード（連絡はがきその他より）
関心のある方は、ホームページなどを開いて確認していただければと思います。

♪タニグチ・サンデートーク『アコーディオンを語る集い』♪

<https://taniguchi-gakki.jp/sunday.html>

タニグチ・サンデートークを動画で観ることができます。視聴可能な数が増えています。

♪ともしび♪ <https://tomoshihi.co.jp/> コンサート 他

◇アコーディオン合奏講座 冬のコンサート◇

日 時 2024年2月5日（月）開場 17:30 開演 18:00（終演 20:15 予定）

会 場 なかのZERO 視聴覚ホール（本館地下2階）◇JR中央線「中野」駅南口より徒歩8分

ゲスト 土生英彦

チケット 2,000円

問い合わせ ともしび事務センター TEL:03-6907-2731（利用時間：下記参照） FAX:03-6907-3812

mail:下記参照

.....
◇ともしび春のうたごえ喫茶◇ ※詳細は、ともしびのホームページをご覧ください。

日 時 2024年4月6日（土）開場 12:00

会 場 上野公園野外ステージ ◇東京メトロ銀座線「上野広小路」駅より徒歩6分、他

チケット申込み受付 2月6日（火）15:00から

申し込み ともしび事務センター TEL:03-6907-2731 （月～土 11:00～17:00 日曜・祝日お休み）HPからも申し込めます。 メール: info@tomoshihi.co.jp

♪後藤ミホコ氏♪ <http://www.mihoko-goto.jp>

「後藤ミホコ アコーディオンチャンネル」 vol.95

◇12月25日（月）紀伊國屋ホールでの様子

◇後藤ミホコアコーディオンレッスン（最終回） ジャバラの使い方（ゲスト：Nick Ariondo）

♪田ノ岡三郎氏♪ <http://tanooka.net>

◇田ノ岡三郎 新春独演会 2024年2月4日（日）開場 12:00 開演 13:00（15:00 終演予定）

会 場 中目黒・楽屋 ◇東急東横線・地下鉄日比谷線「中目黒」駅より徒歩5分

予 約 3,300円 当日 3,850円 ↓中目黒・楽屋の予約フォーム

<https://www.rakuya.asia/event-details/tanookasaburo-shinshundokusokai2024-1>

あるいは、mail: tanookasaburolive@gmail.com

※他のライブは、ホームページをご覧ください。

♪牧田ゆき氏♪ <http://www.planet-y.co.jp/makita/>

♪大塚雄一氏♪ <http://www.hi-ho.ne.jp/acc-ohtsuka>

♪かとうかなこ氏♪ <http://www.katokanako.com/index.html>

♪スプリングコンサート♪ 2023年度音楽センターアコーディオン科 南部教室修了演奏会

☆日 時 2024年3月24日（日）開演 13:30 開演: 14:00

会 場 川崎市総合自治会館 ◇JR南武線・東急東横線「武蔵小杉」西口又は南口3より徒歩2分

演奏曲 春のうたメドレー 詩人の魂 ハナミズキ ガブリエルのオーボエ 上向いて歩こう

碧空 on the sunny side of the street デイドリーム ビリーバー 他

ゲ ス ト 山田千賀子（ソプラノ）

■入場無料 ■問い合わせ先：音楽センター教育部 TEL. 03-3208-8377

..... ホワイトボード（連絡はがきその他より）

♪たんぽぽ アコーディオンコンサート ～ そこに広がるこころのメロディー ～♪

「川越アコーディオンサークルたんぽぽ」は発足して 43 年。指導者は、日本アコーディオン協会理事長の松永勇次先生です。個人レッスン、アンサンブル、合奏などの指導を受け、隔年でコンサートを開催してきました。川越市の文化団体や音楽団体と共に演奏会も開催しています。

コロナ禍で 2 度の延期を余儀なくされましたが、今年は念願のコンサートを開催する運びとなりました。詳細は次の通りです。

日 時 2024 年 5 月 19 日（日） 開場 13：30 開演 14：00

会 場 川越西文化会館「メルト」◇東武東上線「霞ヶ関」駅より徒歩 10 分 ☎049-233-6711

入場料 1,000 円（小学生 500 円）

後 援 NPO 法人日本アコーディオン協会、川越市文化団体連合会

演奏曲 ソロ、デュオ、アンサンブル、アコーディオンオーケストラなど、様々な表現で演奏します。

キエフの大門、ニュー・シネマ・パラダイス組曲、キネマの天地、ケ・セラ・セラ、フニクリ・フニクラ、アバメドレー、通リゃんせ 他

編曲・指揮・音楽監督：松永勇次

問合せ 岡田勢津子 ☎090-5513-6293 (wkcokada@jcom.home.ne.jp)

.....
【訃報】 杉村壽治様（全関西アコーディオン協会会長） 2023 年 12 月 23 日未明、ご逝去されました。

杉村先生はビバ・アコーディオン実行委員長をなさっておられたことから関東アコとの交流は長く、第 13 回（2001 年）にゲストとしてお招きし、節目の 15 周年記念誌、30 周年記念誌にメッセージを寄稿いただき、15 周年記念誌の中ではビバ・アコーディオンを始められたときの想いを以下のように述べておられました。

—前略— そもそもビバを始めたきっかけは、関西にたくさんの教室やグループ、同好会があるのに、それらの交流が殆どないので、その交流を図りアコーディオン愛好の仲間意識を育てたいというのが一番根本にあり、—中略— 演奏の素敵なのを聴かせるのも良し、なつめろを突っ掛かったり、弾き直したりしながらでも私はこうしていつかもう少しでも間違ったりする所が少なくなるのに幸せを感じてアコを楽しんでいます、というのも見方によれば親しみが湧くのではないのでしょうか。どんな演奏でもアコーディオン好きならばその人その人の楽しみ方を尊重して仲間になりましょうというのが第 1 回 “ふれあいこんさあと” VIVA ACCORDION の目的でした。

—中略— 今後とも、関東アコーディオン演奏交流会と “ふれあいこんさあと” VIVA ACCORDION が手を携えて朋に発展していきたいと思っています。

関東アコ 15 周年記念誌寄稿原稿（2004 年発行）より一部を紹介させていただき、杉村壽治様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

.....
■関東アコ 2 月実行委員会 2024 年 2 月 11 日（日）19:00～Zoom 会議予定

編集後記

2024 年は大きな災害で新しい年を迎えました。

能登半島地震の被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

少しでも早く復旧できるように、私たちもできる限りの支援をしていきましょう。

音楽を愛する者としてなにかのお役に立つことができればと思います。